

パーム油発電 本当に「エコ」?

京都の2施設 住民が反対運動



アブラヤシの実を運ぶトラック=2020年3月、インドネシア・アチェ州、ドローンでArie Kaltu氏撮影

た。だが、生活環境悪化を訴える声が続出し、パーム油発電が「エコ」とされること自体にも疑問が浮かび上がってきた。稼働停止になったのは、京都府福知山市で2017年から稼働していた、住宅街に接する発電所だ。住民団体の代表を務

二谷さんは、16年の稼働前の住民説明会に出席。「環境に優しい発電で、周辺対策もする」という説明を受け、良い印象を持っていた」と振り返る。だが稼働後、24時間運転する発電所（発電容量1・76ガワット）からの騒音や悪臭を訴える住民が

日華文庫

卷之三

アブラヤシから採れ、食品や化粧品にも使われる「パーム油」を燃料とする火力発電所をめぐり、近くの住民から反対が相次いでいる。原料の植物が成長するとき「酸化炭素(CO₂)」を吸収するバイオマス燃料として、国はパーム油を「再生可能エネルギー」に位置づけている。なぜ反対運動が起きるのか。

京都府内では、住民の反対運動を経て、パーム油発電所2カ所で稼働や計画が止まった。住民は刃のうちは歓迎して、あつたことある。

京都府内では、住民の反対運動を経て、パーム油発電所2カ所で稼働や計画が止まった。住民は刃のうちは歓迎して、あつたことある。

いたことかわからぬ。住民たるが20年7月に公害調停を申し立てた後、企業側は稼働をやめた。福知山市に隣接する京都府舞鶴市では、造船企業などが17年から、パーム油発電所をつくる計画を進め、市も支援してきた。市によると、発電容量は福知山市の発電所の約40倍に上る64ワット、使用するパーム油

所もあつた」と話す。
森本さんは企業の株を取得。20年6月の株主総会で株主質問に立つて、役員からパーム油発電事業を中止する回答を得た。森本さんは「パーム油発電は、群馬など他の地域でも問題になつており、経験を伝えていきた
いと話す。

騒音・悪臭 生態系破壊の懸念も

取り組む「ウータン・森と生活を考える会」（大阪市）も一緒に活動した。同会の石崎雄一郎事務局長は、「多くは返答がなかつたものの、話を聞いてくれる

アブラヤシから採れ、食品や化粧品にも使われるバーム一日を燃料とする火力発電所をめぐり、近くの住民から反対が

いがことがわがした住民らが
20年7月に公害調停を申し立て

「たるもの
話を聞いてくれる
所もあつた」と話す。

ハーブ油の原料となるアーモンヤシは主にインドネシアやマレーシアで栽培され、森林伐採による生態系の破壊などが問題視されてきた。森本さんは計画中止を求める運動を始めた。

計画反対の署名集めに加え、企業の財政を支える金融機関や株主などに、融資の引き揚げ訴えた。熱帯雨林の保護活動に「ダイベストメント」を手紙で

と指摘する。同法人など四〇の環境団体は20年11月、バイオマス発電について、植物が吸収するCO₂と燃やした時に出るCO₂を相殺できる「カーボン・ニュートラル（炭素中立）」ではないとする見解を発表した。「バイオマスは地元で使われるべきで、輸入を前提とするFITの制度は慎重さを欠いて

た」。たが先に稼働して、いた福知山での被害の訴えを知り、食品にも使われるパーム油を大量に燃やすことへの疑問を抱き、勉強会を開くようになった。

NPO法人「バイオマス産業社会ネットワーク」（千葉県柏市）の泊みゆき理事長は、「パーム油発電がFITの対象になつていること 자체がおかしい」

発電所予定地近くで、資材の
通信販売業を営む森本隆さんも
当初は「バイオマスということ
で、特に反対することもなかつ

格買取制度（F.I.T.）による収益を見込んでいた。福知山市の三谷さんは、F.I.T.に問題があると考へている。

66 ガワット、使用するパーム油は年間約12万㌧と見込んでいた。食品や化粧品などに使うために輸入されるパーム油の量の

い」と話す。

鶴市では、造船企業などが17年から、パーム油発電所をつくる計画を進め、市も支援してきた。市によると、発電容量は福知山市の発電所の約0倍となる。

に立つて、役員からパーム油発電事業を中止する回答を得た。

いたことがわかつた。僕らが20年7月に公害調停を申し立てた後、企業側は稼働をやめた。福岡山石に隣接する吉那村は、森本さんは企業の株を取得。所もあった」と話す。

（野中良祐）